

今回は

群衆心理

のお話です。



「群衆心理」という言葉を聞いたことがありますか？(集団心理とも言います)
本日は、この「群衆心理」についてお伝えさせていただきます。

群衆心理とは、**集団の中で生まれる特殊な心理状態のことを指す**言葉で、

主に心理学で使われます。人間は群れることで、特徴的な行動をとることが分かっています。

- ① 極端な行動を取る
- ② 攻撃的、過激的、排他的な思考や行動をとる
- ③ 気分が増長して、衝動的な行動をとる
- ④ 判断力が鈍り、集団の主張や行動に流される

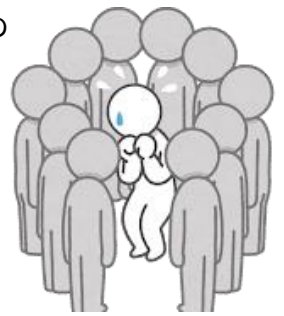
魔女狩り、世界恐慌、など聞いたことがある単語だと思いますが、これらも群衆心理のひとつです。

群衆心理が悪い方向に向かうと、
・SNS などでの炎上
・カルト集団
・いじめ
です。

いじめは社会問題にもなっています。

見方を変えると、ヒトが関わる以上この群衆心理は無くならないので、これら問題の発声は必然なのかもしれません。

しかし、いじめは人を傷つけます。
子どものいじめも大人のいじめも陰湿になってきていますし、未だに「いじめられる人が悪い」という時代錯誤の意見も散見されますが、人としてこうした側面に目を背けてはなりません。



人は群衆の一員であることで、安心感を得られるようです。

「してはいけない事だ」と理解していても、その安心感から問題行動をしてしまうこともあります。

この安心感には「**傍観者効果**」という心理が働いています。

「傍観者効果」とは、何かトラブルが起きている状況において、周囲に多くの人間がいる場合、自分から積極的に行動を起こさなくなってしまう現象をさします。周囲に人がいる状況か否かで、人間は自分の行動を変えてしまうという事実を傍観者効果は示しているわけです。



傍観者効果は、
① 責任の分散

- ② 評価懸念
- ③ 多元的無知

により起こることが分かっています。

① 「責任の分散」については、集団になると

一人あたりの責任が分散して軽くなってしまい、自分から動きにくくなったり責任感を感じにくくなってしまいます。

自分以外にも無視している人はいるから別に自分だけが悪いわけじゃない、と自分を正当化して、いじめ解決に向けて何もしなかったことへの非難や罪悪感を意図的に減らしてしまうことがあります。

② 「評価懸念」とは、他の人が様子見をし

ている状態で、自分が積極的に行動したことで周囲から否定的に見られることを恐れることを指します。

自分だけいい子ぶっているなどと思われたくないので見て見ぬふりをしてしまう事です。

③ 「多元的無知」は、他の人が積極的に動

いているわけではないので、目の前の問題はすぐに解決しなくてもよいと考えてしまうことです。

SNS が当たり前活用されている時代ですが、mail や LINE、Instagram など、何気なく出した言葉や内容が、受け手にはキツイ印象を与えることがあります。便利なツールは文書というより、言葉を発することに近いですね？



思ったままに文字にすることは、注意を払う必要があります。

自分ではそう思っていないでも、貰った相手にとっては苦痛と感ずることがあるかもしれません。

回数ではなく「たった 1 通のメール」が

「たった一言の言葉」が

人を傷つけるということを一人ひとりが考

える必要があるのではないのでしょうか？

「そういわれると何も言えない」と委縮してしまいそうですが、見方を変えれば、そう思っているうちはまだ大丈夫かもしれません。

「私はそういう事に気を付けているし大丈夫！」とい

う場合、もしかしたらあなたの周り

に傷ついている方がいるかもし

れません。

ただ・・・

もし、意地悪されていると感じた場合は、

その相手から「距離」を置いて下さい。

信頼できる人に相談すること、話すこと、距離をおくこと、全て逃げではありません。

大人は分別があると思いたいですが、時にはこうしたことが起こり、ハラスメントなどに繋がるのが少なくないため、本日はお話をさせて頂きました。

最後に**群集心理**は悪い事だけではなく、良いことに働くと

「大きなことを成し遂げる力」

になったりします。募金などや、震災後の助け合いの言動などがその例として挙げられます。

職場内でも群集心理は働きます。その結果、いじめやハラスメントが起きない、または起こりにくいようにするために、取り組む必要があるでしょう。

どんな人でも、自分でも

一瞬で善にも悪にもなります

次回は
なんですか？
お楽しみに。

